

2024年度 メリー★ポピンズ kids 北朝霞ルーム 事業報告書 (保育所における自己評価)

1. 2024年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

子どもに関わる大人全員が、常に「子どもの最善の利益とは」を軸に置き、様々なことにおいて「これは子どもにとってどうなのか」ということを考えながら、子どもたちに関わることを大切にしてきた。今年度はさらに「丁寧な保育の実践」を徹底すべく、様々な点において振り返り、見直しを行ってきた。日常生活の中での保育者の細かな関わり方や、子どもに対しての声の掛け方、室内環境や遊びの環境を整えることなどはもちろん、職員自身の働き方や時間の使い方、業務内容も見直し、職員自身がゆとりを持って子どもに関われる環境を整えることができた。日々の積み重ねから、「丁寧な保育」が保障されている場面が増え、大人がゆったりと関わり子どもが安心して過ごせる園になってきている。来年度も引き続き「丁寧さ」にはこだわり、子どもにとっての最善の利益の追求をしていきたい。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子ども一人ひとりの姿を捉える
	実践結果	園内研修で子どもの遊びの様子を写真やエピソードで持ち寄り、職員間で共有する。経験年数に関係なく、子どもの様子や行動の背景を知ろうとする視点を持つことができた。
	次年度方向性	日々の保育の中での子どもの姿を観察する視点を大切にし、継続して取り組み定着させる。
2	計画・ねらい	子どもの姿を捉えた保育計画の作成、実践、振り返りのPDCAサイクルの定着
	実践結果	子どもの姿から興味関心はどのように広がるかを予測し、保育者間で場を作って話すことに重点を置いてきたため、保育計画への反映や実践までつなげることができなかった。
	次年度方向性	子どもの遊びや興味関心から保育計画を作成することが当たり前になるように、保育者の視点を育てていきたい。
3	計画・ねらい	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を子どもの姿に重ねながら、読み解いていく。
	実践結果	幼児クラス職員を中心に、子どもの姿と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を重ねながら、今の子どもたちはどのような育ちがあるのかを話し合うことができた。
	次年度方向性	幼児クラスの職員のみならず、全職員で意識した関わりができるように理解に努めていきたい。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	全職員が、保護者の気持ちに寄り添い信頼関係を築き、保護者の心に入り込んだ接遇を心がける。
	実践結果	まずは子どもたちと関わった職員がお迎え対応に出て、日中の活動の様子を細かく伝えられるようにする。また家庭とのやり取りや伝達事項は必ず共有と後追いをし、その職員が対応しても曖昧な対応にならないようにすることを徹底した。
	次年度方向性	伝達事項の共有などは継続して徹底していく。職員間での「保護者の心に入り込んだ接遇とは」の認識を合わせ、より信頼関係を深められるような保護者対応を積み重ねていく。
2	計画・ねらい	自園の強み・特性を生かした園の様子や子どもの姿の記録と公開を行い、情報を発信する。
	実践結果	タイムラインの投稿内容を充実させていく。子どもたちの成長はもちろん、保育者の視点や活動の意図なども伝えていく。行事の前には、子どもたちの継続的な姿や取り組みを伝えていくことで、保護者に対して行事における意味も共有することができた。
	次年度方向性	今年度同様丁寧に取り組んでいく。内容の質にもこだわり、保護者が楽しみにしてもらえるようなタイムラインを発信していく。
3	計画・ねらい	保護者がいつ来ても整理整頓されている気持ちの良い保育園にしていく。
	実践結果	常に整理整頓が行き届いている状態が継続されるようになった。観葉植物を置き、ホッとするような温かい空間を作ることができた。この状態が当たり前になったことで、職員の美観に対する意識も変わり、全員で常にきれいな状態を維持できるようになってきた。
	次年度方向性	継続して取り組み、気持ちの良い園を維持できるようにする。古くなっている備品を見直し、必要に応じて買い替えを行い清潔感を保てるようにする。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	青空保育、園開放などによって保育園と地域とのつながりを持つ。
	実践結果	青空保育、園開放ともに参加者が少なくそれに対する対策を講じることができなかった。
	次年度方向性	地域のイベントと重なる日も多くあったので、開催日や開催場所の検討を行う。その上で集客に向けた告知方法などを検討し、参加者を増やしていく。
2	計画・ねらい	「ちきんえっぐ」の定期的な開催により保育園を知ってもらう。
	実践結果	園見学や入園予定の家庭を中心に、ちきんえっぐの開催内容といつでも気軽に園に遊びに来ていいことをお伝えする。継続的に取り組み続けたが、参加者は少なく「ちきんえっぐへの参加」が定着しなかった。

	次年度方向性	地域に対しての告知やアピールが足りていないことが人が集まらない原因になっているため、まずはその点においての強化を行う。
3	計画・ねらい	保育園が地域の資源としてサービスの提供をする。
	実践結果	地域に開かれた園までには程遠く、在園児のみが利用している園という印象が強い。
	次年度方向性	地域に開かれた園になるために、ちきんえっぐや園開放の参加者を増やし、園と保育園・地域の保護者同士のつながりがもてるようにする。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	子どもを観察する力を身につける。
	実践結果	子どもたちと日々遊んだり、生活を共にしていく中で「保育者としての専門性とは」を職員に都度投げかけていく。「遊び」の中で育っている力やその子の興味関心は何かなどの気づきを常に職員間で共有できるような風土を作る。一人ひとり違った気づきを持つことで、そんな視点があるのかという発見や大人の思いに気付くこともできた。
	次年度方向性	子どもの観察そのものを継続していくことはもちろんだが、今年度はそれに対しての保育者間の共有が、チャットや園内研修の場であったため、来年度は保育者間の何気ない会話の中や、業務の合間などに共有ができる関係性を作っていきたい。
2	計画・ねらい	子どもの姿からつくる、子どもたちが選べる環境の設定
	実践結果	定期的に子どもたちの興味関心や意欲はいま何なのかを保育者間で話し合い、室内の環境構成をその都度見直していった。玩具の設置一つにしても、子どもの姿に合わせて変えていくことで子どもたちの遊びの様子が変わり、場所・物・動線などを踏まえて丁寧に見直すことができた。
	次年度方向性	子どもたちを取り巻く環境の重要性を理解し、現場の職員からの発信で環境の見直しができるようにしていきたい。大がかりな再構成ではなくてもいいので、子どもの姿に沿った環境をこまめに見直していけたらと思う。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環を知る。
	実践結果	畑活動や再生野菜などを育てることで、食の循環について興味を持つ姿が見られた。魚を捌いて食す体験では、大きな魚が捌かれる過程を目の当たりにし、子どもたちも様々な感情を抱いていたが、日々自分たちが当たり前のように食べている魚に対して考えるきっかけになり、食物連鎖によって生き物とつながっていることを知る経験にもなった。

	次年度方向性	子どもたちが食の循環を知ることができる機会をきちんと作っていく。その場限りで終わらせるのではなく、継続的に意識できるよう工夫していく。
2	計画・ねらい	食べ残しを減らし、残渣から堆肥生産を行い有効活用できることを子どもたちと一緒に実践し、知っていく。
	実践結果	食事環境を整え、食べ残しを減らすことから取り組む。子どもたちに食べさせたり、残さないように伝えるのではなく、落ち着いた食事環境を作り、大人も一緒に食事を楽しむことで食事の時間が「楽しい時間」となる。その結果残渣も減り、食事の時間が満足できる時間につながった。またコンポストを設置し、幼児の子どもたちを中心に堆肥生産に取り組むこともできた。
	次年度方向性	堆肥ができる流れや仕組みを、子どもたちと一緒に探り、保育の中で興味関心がつながるような取り組みにしていきたい。

〈6〉子ども自らが選ぶ取ることのできる環境構成

1	計画・ねらい	発達に応じた環境設定
	実践結果	子どもたちの成長発達に応じて環境を見直すことの必要性を伝える。定期的に時間を作り、それぞれの担当で子どもの発達を話しながら環境構成を見直すようにした。
	次年度方向性	保育者の役割として、環境構成が大切であることを一人ひとりがきちんと認識し、業務の中で優先されるようにしたい。
2	計画・ねらい	選べる環境をつくる
	実践結果	それぞれのゾーンに何種類かの玩具を設置し、好きな遊びをじっくり楽しめるようにした。造形ゾーンでは、廃材や道具、様々な素材の設置が行き届かないことが多く、課題として残る。今年度は子どもたちが主体的に学び取れるような、図鑑や本、地球儀や地図なども設置することができた。
	次年度方向性	造形ゾーンの充実を図りたい。選べるものを種類豊富に置くこと、そのために環境をどのように整えていくのかを検討し、子どもたちにとってより遊びが深められる環境にしていきたい。
3	計画・ねらい	保育者の関わりを振り返る
	実践結果	子どもたちとただ一緒に過ごす大人ではなく、保育者としての専門性を訴えかけていく。研修の場だけではなく、施設長や主任が散歩に同行し、その場での子どもの姿に対しての保育者の視点を共有したり、問いかけていくなかで自分たちの関わりを振り返る機会を持てるようにした。
	次年度方向性	来年度も継続して取り組んでいく。日々の積み重ねを大切に、職員の関わりや気づきを職員間で共有することを意識していきたい。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	36人	59人	60人	72人	72人	66人	365人
年度後半： 10~3月	33人	57人	56人	68人	69人	69人	352人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	164 人	180 人	182 人	223 人	181 人	180 人	201 人	203 人	180 人	191 人	173 人	188 人	718人
うち0 歳児	6人	11人	17人	13人	17人	13人	13人	20人	17人	16人	13人	15人	156人

（解説）18時以降の延長保育利用者とする

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人
うち0 歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	8人	看護師	1人	栄養士	0人	調理員等	2人
パート スタッフ	保育士	5人	補助	1人	事務	1人	用務	1人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・毎月のテーマや課題に沿った園内研修
給食運営会議	月1回	・食育活動実施内容確認 ・喫食状況、食事環境の確認 ・アレルギー対応の確認 ・献立の振り返り
事故防止委員会	月1回	・自園ヒヤリハット、インシデント分析 ・自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策策定 ・全園事故防止委員会の内容共有

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	衛生管理や衛生点検の徹底。適切な備品管理の徹底。
安全対策係	避難訓練・不審者侵入訓練の実施。設備などの点検・確認
防火管理者	災害に対しての避難訓練の立案。設備や災害備蓄品の点検、管理。

食品衛生管理係	食品の品質管理・衛生点検の徹底。調理室の衛生管理。
畑係	年間農業計画の遂行、管理

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保護者の方を巻き込み、地域の方にもたくさん参加していただき夏ならではの祭りを計画、実施することができた。
朝霞市民祭り 彩夏祭	有志の保護者、子どもたちと一緒に参加

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活に対して不安や戸惑いを抱いている保護者に対し、面談を随時受け入れていることを伝え、積極的に対話ができる機会を設けた。 ・毎日のタイムラインを充実させ、園での取り組みや子どもたちの姿などをこまめに配信した。
保育参加	4～3月まで 合計11名 が参加済み （3月1日時点） ・普段の子どもの様子や、先生の関わり、友だちとの遊びの様子を知ることができた良かった。
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計4名 が参加済み （3月1日時点） ・園、家庭での子どもの様子
運営委員会	運営委員会を6月7日、11月8日にメリー★ポピンズ kids 北朝霞ルームにて実施し、参加した保護者は第1回、2回とも各3名 詳細は議事録に記載

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	丁寧な食事を提供し、落ち着いた空間で食を豊かなものにする。
	実践結果	食事中だけでなく、前後からの保育者の動き、関わり、食事に向かう子どもたちの動き、動線などを全て見直し、落ち着いた食事環境を徹底的に追求した。年間通して見直しを繰り返し、年度当初からは見違えるほどの落ち着いた食事環境になり、それに伴い保育者の関わりも丁寧になった。
	次年度方向性	継続して子どもの様子に応じて見直し、改善を繰り返す。また離乳食においても丁寧さを徹底し、子どもの発達に合わせて適切かつ安全な食事を提供できるようにする。
2	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を身に付けていく。食を通してすべての物への感謝の気持ちを知る。
	実践結果	残渣を減らし、食の循環・命をいただくことに対する取り組みを行うことができた。毎日の小さな積み重ねが定着してきている。
	次年度方向性	野菜くずなどを使って堆肥づくりにつなげ、さらに食の循環を意識できるような取り組みをしていきたい。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	7月11日／10月23日に実施
歯科検診	6月10日にメリー★ポピンズ kids 北朝霞ルームにて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 4月園内にて手洗い指導を実施 ② 6月10日に園内にて歯磨き指導を実施 ③ 12月11日に園内にて性教育を実施
流行した感染症	① 1月にインフルエンザ A、園児4名感染報告有り
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計2回ダイアアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・本日時点で、在籍スタッフ19名のうち、16名が使用可能

AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・本日時点で、在籍スタッフ19名のうち、15名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月1日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／7月11日、10月23日 歯科健診 各年1回／6月10日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月26日、10月25日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	戸外活動では身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味関心を持つ。
	実践結果	子どもの遊びや発見に保育者が気付き、関心を広げられるような関わりをしていく。季節ならではの虫や草花、水や土に触れながら様々な遊びに繋がっていた。
	次年度方向性	子どもの関心に対して、保育者がさらに工夫を加えより一層興味が広がるような関わりをする。
2	計画・ねらい	自分から環境に関わり、自分で考え主体的に行動できる環境を整える。
	実践結果	室内の整理や美化に対し、職員自らが整えることを当然のように行えるようになった。遊びの環境においては、定期的に時間を作っていくことで再構成や見直すことを意識的に行うようにした。
	次年度方向性	子どもの発達や姿に応じて、職員自らが再構成や見直しが必要だと判断し、環境構成に関われるようにしていきたい。
3	計画・ねらい	室内環境においては、安全で衛生的な整理整頓された気持ちの良い環境を整える。
	実践結果	様々な事故につながらないように、玩具の選定や破損なども定期的を確認を行い、安全に使用できるようにする。園内の整理整頓は定着し、子どものロッカーや倉庫など見えない部分の清掃や整理も定期的に行うことできた。
	次年度方向性	継続して取り組む。全員で取り組むことで、整えることが当たり前となるので、物の片付けだけでなく、机やいすを整えることやスリッパを揃えることなど、些細なことにも気を配れるような園にしていきたい。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	玄関ベンチ	玄関	3か月に1回	異常なし
2	2×4収納棚	調乳室	3か月に1回	異常なし
3	幼児室ベンチ	幼児室	3か月に1回	異常なし
4	モデム置き場（吊り戸）	幼児室	3か月に1回	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災実践結果	毎月の避難訓練を実施し、様々な状況を想定しての訓練を行った。自主点検などでは発電機を使用し、使用方法がわからない職員も実際に使うことができた。
---	--------	---

2	事故防止実践結果	事故防止チェック、設備点検チェックを定期的を実施することができた。生存確認も徹底され、職員全員が責任をもって行うことができた。ケガ発生時には適切な対応、報告をすることができた。
3	防犯実践結果	保育中の笛の携帯を徹底し、何かあったときにすぐ周囲に知らせられる行動を身につける。不審者侵入訓練では、玄関のみならず様々な場所から侵入されることを想定し、どのように対応していくべきか全体で考えることができた。
4	光化学スモッグ実践結果	自治体からの注意発令の際は戸外活動を控えるようにした。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

保育・福祉に関心がある学生に対し、積極的に実習などを受け入れた。実習生自らの気付きを丁寧にくみ取り、保育の楽しさや子どもと関わる楽しさを伝えるようにした。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月13～27日	日本児童教育専門学校	1人	観察実習
2月5～17日	越谷保育専門学校	1人	責任実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
8月9日	広尾学園中学校	1人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 18名	24日 20名	21日 19名	26日 19名	23日 19名	20日 19名	25日 19名	22日 19名	27日 19名	31日 19名	28日 19名	28日 19名

虐待防止研修	26日 18名									31日 19名		
園内研修	26日 12名	24日 13名	21日 11名	26日 11名	23日 12名	20日 12名	25日 10名	22日 9名	27日 11名	31日 12名	21日 14名	2日 14名
さくらさくら んぼリズム研 修 講師：古川み どりさん	6月13日に朝霞どろんこ保育園にて4名のスタッフが出席											
	収支報告											
		事業計画にて計上した予算						実際の支出				
		講師代				0円		講師代				0円
		合計				0円		合計				0円

〈2〉外部研修への出席

なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	17 日 1名	15 日 1名	27 日 1名	17 日 1名	22 日 1名	19 日 1名	17 日 1名	21 日 1名	19 日 1名	16 日 1名	20 日 1名	21 日 1名
施設長勉強会	17 日 1名	15 日 1名	26 日 1名	18 日 1名	21 日 1名	18 日 1名	16 日 1名	20 日 1名	18 日 1名	15 日 1名	19 日 1名	19 日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

駅前型の園としての強みを生かし、様々な施設に行き交流することを設けたり、日頃の散歩で挨拶したり声をかけていただいたりと少しずつ関係性を深められることができた。高齢者施設への訪問も再開され、毎月利用者の方々が楽しみに待ってくださることに、子どもたちも必要とされている存在

だということに気付く経験につながった。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：北割公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：三原郵便局、株式会社リゾン等
異年齢交流	8月20日に自園にて小学生との交流を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

職員間交流では、幼児担任を中心に小学校との連携を取り、自園ではどのような取り組みをしていくべきかを考えることができた。小学校1年生の授業内容や生活を知ること、子どもたちにどのような力が必要か、私たちはどのように関わっていくべきかを具体的に考え計画をたてることができた。子ども間交流では小学校1年生の

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
11月22日	朝霞第五小学校 2年	1名	授業参観・合同研修 （朝霞第五小学校）	職員間交流
1月17日	朝霞第七小学校	12名	校内見学 （朝霞第七小学校）	見学
1月31日	市内小学校	1名	幼保小連絡会（朝霞市民 会館）	職員間交流
2月7日	朝霞第五小学校	12名	校内見学 （朝霞第五小学校）	見学
2月14日	宮戸保育園	1名	保育参観・合同研修 （宮戸保育園）	職員間交流

10. 要支援児

今年度、対象園児なし

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	2名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施 来園延べ人数：0名												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計1回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	2名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：北割公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年12月3日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：8時30分

自己評価終了時刻：17時30分

自己評価実施者：施設長、主任、事務

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

お迎え時などの慌ただしい時間帯の合同保育、職員差によるお迎え対応の内容などの指摘があり、夕方の保育内容や合同保育にする時間の見直し、日中子どもに関わった職員が保護者に直接お迎え時に話せるような職員配置などを徹底する。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2025年3月15日

作成者：メリー★ポピンズ kids 北朝霞ルーム 施設長 坂井 まゆ美